異世界の絆

おはぎ大好き

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
異世界の絆

【Ｎコード】
Ｎ６５３４Ｍ

【作者名】
おはぎ大好き

【あらすじ】
無数にある大宇宙・・・・・じゃなく世界。普段は交じり合う事がなく、独自に存在している世界。
しかし、ある世界を元に始まった出来事がやがて世界を、いや異世界を襲う。これは、決して交わることがなかった世界が、その世界に住む人達が、築いてく物語。交わることがない者達がお互いを信頼し、ぶつかり合い、広がっていく。
全ての始まりは神々と同等の力を人間が使う事が出来る世界、「バビロア」で起こったある悲劇が一人の青年の心を変えた。やがて

その青年は自分の世界を滅ぼした。しかし、彼の怒りは他の世界までおよんだ。世界に否定され、世界を否定される者達を率いて彼は異世界へと乗り出した。

しかし、彼の意思に反する者がいた。その者は、異世界に存在している自分にコンタクトを行ない、協力者を探し、異世界を救う。そして響きあう、異世界の者達との絆。

エピローグ？みたいな（前書き）

一作目のネタがつきたので、思いついた作品を載せます。
また、すぐ終わりそうだけど、頑張ります。

エピローグ？みたいな

ああ、また世界がひとつ滅びた・・・・・・彼の憎しみは途絶える事を知りやしないな。ボクはどうしても、全ての世界に干渉することは出来ない。しかし、異世界のボクにコンタクトしても、その異世界に彼らに対抗する力がなければ、どうしようもない。バビロアの世界から付き合ってもらっている仲間に申し訳ない・・・・・・・・・

でも、やらなくちゃいけない。彼と同じ世界のボクにしかもう希望はない・・・・・・・・・・いや、まだ希望はある。異世界にいるボクから聞いたけど、仲間はたくさんいるって・・・・・・・・・・

そうだ、仲間を集めよう。彼らがやってるみたいに、世界を守りたい気持ちを持った人達を集めて世界を一緒に守っていこう。うん、そうしよう！！！

エピローグ？みたいな（後書き）

頑張っていこうと思いますよ、ハイ・・・・・・・・・・・・・

「暗いね～、ウチの作者は。」

だって、一作目の作品もうネタが～・・・・・・・・・・・

「この作品もそうならない事を祈ろう～。」

今回のオリ主は前向きだわ～・・・・・・・・・・・

「いや、あんたが暗いのだよ。」

そかもね・・・・・・・・・・・

「あ～次回も今日中に投稿するかもね～」

頑張ります・・・・・・・・・・・・・

第一世界　「死神がいる世界」（前書き）

サブタイトルを見てのとうりにＢＬＥＡＣＨの世界です。
完全のオリジナルストーリーになります。時間軸は一応藍染を倒したと言う設定でいきます。今後のジャンプを見て参考にしていこうと思います。
キャラの性格が可笑しくても、勘弁して下さい。

第一世界　「死神がいる世界」

ここは空座町（カラクラ）のクロサキ医院の黒崎一護の部屋。

一「ふぁ～・・・・・・・・平和だな・・・・」

などと平和主義・卍解（バンカイ）の発言をしたこの男こそ、この作品の主人公である黒崎一護である。一見みるとＴＨＥ不良にしか見えないヘタ、いや主人公である。

一「ハックション！！・・・・・・・・誰か噂でもしてんのか？」

意外と勘のいいヤロウでしたか。まあ、それは置いといて～、この主人公がどんな活躍をしてきたのかは、作品を買うかアニメを見ることを勧めます。今や、藍染を倒しつかの間の平和を満喫中みたいな感じです。

コン「へ！！誰がオメェみたいなヤツの噂なんかするかよ！！」

と生意気いってるヌイグルミ。けしてラジコンでも、九十九神でもありません。難しい説明はしないのであしからず。

一「うっせーなコン！！」　ムギュ！！

コン「フギャ！！！や、やめろ～わ、綿がでる！！」

などとコントかましてます。

コン「姉さんは尸魂界（ソウル・ソサエティ）に行っちまうし、井上さんは友達とピクニ

ックに行っちまうし、暇なだよ！！」

めっさ邪な心が見える・・・・・・

一「いいじゃねぇか。それだけ世界が平和になった証拠だ。」

［その平和は何時まで続くの？］

一「ん？」　キョロキョロ

コン「？？どした一護？」

一「コン、お前今何か喋ったか？」

コン「へ？喋ってねぇけど？」

一「そうか・・・・（空耳か）」

ホロウ！！ホロウ！！ホロウ！！

一「うお！！！久しぶりにビックリした・・・・・」

コン「虚（ホロウ）か？」

と一護はなんか盛大に音を出してたモノを掴むと胸に当て・・・・・・

ボォン！！

一「うし！！いっちょやるか！！」

一護の体から黒い時代劇みたいな服装をした一護が飛び出してきた！！分離でなく死神になったのだ！！でも、ある意味幽体離脱～みたいなかんじだな、Ｔシャツきてる一護がベットに倒れているし・・・・・

一「じゃ、行ってくるから家のヤツを頼むぞ、コン。」

コン「へ！！オメェに言われるまでもねぇ！！」

一「は！！そうか、よ！！」

と一護は窓から飛び出した～！！！！・・・・・・でも死なないよ、だって死神だもん！！！・・・・・はい、古いネタごめんなさい・・・・・・空中を高くジャンプしながら一護は目的地に移動している。

～とある公園～

女の子「いや～！！」

虚「おとなしく食われろ～！！！」

となんか変態が女の子を襲っていた・・・・・・新手のコスプレか？

虚「違～う！！」

女の子「え？（誰とはなしているのかな？）」

虚「は、オレはなんでこんなコトを！？」

な～んか鋭いなこの世界の連中・・・・・・・・・

虚「まぁいい。兎に角、頂くとするか・・・・・・」

女の子「ヒッ！！」

一「待て！！」

虚「ん？」

おお、タイミングバッチグー！！略してＴＢＧ！！・・・・なんか変だ・・・・・・・

虚「なんだお前？」

一「死神代行、黒崎一護。てめぇを倒す男の名前だ。」

かっこいいわ～！！なにこの人、天然？天然なの！？あ、髪は天然か・・・・・・

虚「死神か！！ハッ！！ちょうどいい、てめぇも一緒に食ってやる！！」

それ完璧死亡フラグ・・・・・・・と言いながら突進してくるヤラレさん・・・・・・

一「フン！」

おっと、一護は自分と同じはあろうか位の斬魄刀を一振り振るった

ズバァン！！！

虚「ギャーーー！！」

お～、一発ＫＯ！！虚のヤツ砂のように消えていったよ。さすがやられ役。そこには何もしびれな～い、あこがれな～い。

一「まったく、藍染がいなくなっても虚はいなくならねぇな・・・・・」

そりゃそうだ

女の子「あ、ありがとうお兄ちゃん。」

一「おう、大丈夫だった・・・・か・・・・・・」

女の子「ん？どうしたの、お兄ちゃん？」

一「い、いや、なんでもない・・・・・（何だコイツ、普通の人間の女の子か？でも、魂魄じゃねぇよな、胸に鎖がねぇ。でも、霊力も感じねぇし、多分だけど・・・・・・・でも、虚が見えていた。井上達みたいに何か能力を持ってんのか？でも、なにより・・・・・）」

女の子「お兄ちゃん？」

一「いや、それよりお嬢ちゃん、お前・・・・・オレが見えるのか？」

そう、それが一番の問題かもしれない。皆さん知ってのとおりに死

神は普通の人には見えません。

女の子「見えるよ。何か可笑しいの？」

一「いや、べつに可笑しくは・・・・・」

女の子「クス・・・可笑しなお兄ちゃん・・・・・・・（ニコ」

この子笑ってるよ・・・・・・・

一「う・・・・・（気にしすぎか）」

女の子「ホント、面白いお兄ちゃん・・・・」

と、女の子はポケットから短剣を、って！！

一「何！？」

女の子「だから、死んで・・・・・」

第一世界　「死神がいる世界」（後書き）

今日中に何とか、一話目完成です。多分・・・・・・・
ああ、続くかな・・・・・・いや、頑張ります！！！

という訳で、イキナリ謎の女の子に刺された？一護！！大変だ！！
はたして、一護の運命は！！
そして、謎の女の子の正体は！！！

では次回をお楽しみに～！！

コン「オレに出番をくれ～！！！」

白の悪魔

女の子「だから、死んで・・・・」

女の子がポケットから短剣を出して一護を刺して・・・・・・・・

ガキン！！！

・・・・なかった

一「あ、危ねぇ～じゃねぇ～か！！」

一護はデカイカタナ？、もとい残月で短剣の攻撃を防いだようだ。

女の子「す・・・・・」

一「ん？」

女の子「すっご～い！！」

一「うわ！！」

女の子「すごい！！すごい！！あの距離で人間レベルだけど、その速度での攻撃をそんなデカ包丁で防ぐなんて、すっご～～い！！」

めがまっさ喜んでいるがな・・・・・・・

女の子「変わった世界だよね～。白い仮面の変なお化けがいて、

黒い服のお兄ちゃんは人間離れしてるし、変な気が満ちていて～。とても変わった世界だね～♪」

一「な、なんだこのガキ・・・・・・って、まてよ・・・お前今何て言った？」

女の子「え？さっきって？」

一「変わった世界って言ったか？」

女の子「うん！言ったよ！」

一「・・・・・（この世界ってことは、こいつは人間界の住人じゃねぇな）おい。」

女の子「ん？何～？」

一「お前、死神か破面（アランカル）か？」

女の子「シニガミ？アランカル？何それ～？」

一「違うのか？」

女の子「違うよ～！」

一「じゃお前は何者なんだよ？」

女の子「クス・・・・・・」

一「何が可笑しい？」

女の子「ふ・・ふふふ・・・・・・」

一「？」

女の子「アハハハハハハハ～！！」

一「お、おい、どうし・・」

ヴァッ！！！！

一「くっ！な、なんだ！！」

いきなり女の子から強い風が吹き始めた。

一「な、なんて風だ・・・（それより何だ、あいつから漂ってきてるモンは・・・）」

女の子「フフフ・・・・・・」

一（殺気か・・・いや、霊圧に似ている。でも、何かが違う！！）

女の子「私の正体・・・・・知りたいんだよね？」

一「！！」

女の子「なら見せてあげるよ・・・・私の力・・・」

一「な、何だあれ！？」

いきなり女の子の足元から白い液体みたいなものが出てきて女の子を包んでいく・・・・やがて、女の子がいたところには白い球体のモノが出来ていて、女の子の姿は無かった・・・・・

一「なにもんだよ、あいつ・・・・・」

一護は驚いて固まってしまった。そして、次の瞬間・・・・・・・

ぽと・・・・・

一「！！」

ぽとぽと・・・・・

白い球体が解け始めた・・・・・そして、やがて人が出てきた

女の子「・・・・・・・・・」

さっきの女の子なんだろうか？さっきまでの女の子は髪が黒く、ヒラヒラのワンピースを着た日本人の十歳くらいの女の子だった。だか今は

一「全部真っ白だと・・・・・」

そう、全が白の一色だった。眼も、髪も、肌も、服も、靴も、そして不気味な程に・・・・・・

一「影も白・・・・だと・・・・」

そう一護は見間違いをしているわけでもなく、本当に影も白かった。

一「あいつに似ている・・・・」

一護が言うあいつとは、以前一護の中にいた内なる虚のことだ。そいつも、白かった。でも、目の前にいる女の子より真っ白という訳では無かった・・・・・でも、一護にとっては悪魔のような存在だった。何時自分の体が乗っ取られてしまうかと思っていた時期もあったのだ。悪魔といっても過言ではなかった。

一「なんだよ・・・・・」

女の子「ん?」

一「なんだよ、お前は!!」

女の子「・・・・あ～、挨拶してなかったね～ゴメンゴメン♪・・・・・・私の名前は・・・・・白刃だよ」

一「白・・刃・・・・」

これが、一護と白い悪魔、白刃との出会いだった。

白の悪魔（後書き）

コン「Ｗｅ~ Ａｒｅ~ あとがき～ラジコン・ゴ～ルデ～ン～！！！」

はい、始まりました。あとがきラジコン・ゴールデン。死会は作者ことＯＤＳ（おはぎだいすき）と

コン「ＢＬＥＳＣＨ界のアイドルこと、コン様だ！！」

始まりましたね

コン「おう！！ここで俺様の活躍の見せ所よ！！！」

診せ処の間違いでは？

コン「ちげ～よ！！なんだよ、そのいかにも病んでる見たいな言い方は！！」

すでに病んでますって。

コン「病んでね～！！・・・・たく、お前と組む事になるとは。俺様も不幸だぜ・・・・」

どうせ～。「姉さんや、井上さんと組みたかった～！！」でしょ？

コン「そうだよ悪いか！？」

そんな事と思いましてのコンビです。

コン「ちっくしょ～！！この駄目作者が」

ちなみに、もう少し進んだらゲストを呼ぼうと思います。女性を・・・・・・

コン「偉大なる作者様～、俺様に是非とも愛のほどこしを～」

調子いいヤツ・・・・・・ま、痕(コン)は措いといて。

コン「無視しんなよ！！」

今はネタ考え中により、次回からコーナーとかやっていきます。

コン「E？今回は？」

これで終わりです♪

コン「です♪じゃねぇ～～～！！俺様の見せ場を」

次回は戦闘シーンです、うまく書けるかわかりませんが、頑張りますので宜しく～♪

コン「俺様の見せ場～～～！！」

ｈａｋｕｊｉｎ（前書き）

今回の最後でＢＬＥＡＣＨのあるキャラを敵側に出します。

hakujin

白「じゃ～、いくよ～？」

一「何！？」

白「白大剣（はくだいけん）～！」

白刃が叫ぶと右手の手のひらから先程の白い液体がでてきて大剣を作り、一護に切りかかってきた。

ガキン！！

一「くっ！」

一護は斬月で受け止めたが・・・・・・・

一（重い！！）

白「すごい！！そのデカ包丁、私の白大剣を受けても壊れないんだ！」

一「包丁じゃ・・ねぇ・・・」

白「え？」

一「斬月だ！！」

ガン！！

そう叫ぶと一護は白刃を押し返した。

白「お！お～！！」

一「今度はこっちの番だ！！」

ブォン！！

白「お～、中々速いね～・・・・・」

一「ちっ！」

一護の攻撃を軽い表情でかわす白刃。避けると同時に一護と距離をとる白刃。

白「力も速さも人間レベル超えてるね・・・・死神ってのも本当だったのかも～・・・・」

一「信じてなかったのか？」

白「そりゃ、いきなり自分は死神って言われてもイキナリは信じれないよ～。」

一「そうかよ・・・（死神の俺と同等に戦ってやがる・・・・やっぱコイツは人間じゃ）」

白「ないよ。」

一「！！」

白「私達は人間じゃないよ。」

さっきまでのお気楽そうな表情から変わって真面目な表情な白刃・・・・

一「なんでわかったんだ？」

白「顔見れば分かるよ。そんな顔する人を私はたくさん見てきた。そして・・・・・・・・・・・・・・・・・・・殺してきた・・・・・・・」

一「！！（コイツ今何て）」

白「そしてそれは、これからも・・・・・」

一「！？」

白刃が一護に剣を持ってない左手を向けて・・・・・・

白「変わらない！！」

白い小さな球を一護目掛けて飛ばした。

一「くっ！」

一護はそれを避けたが、それは一護の後ろの木を貫通した。

一「なっ！」

一護は驚いていた。当たり前だ、パチンコ玉くらいの玉が木を貫いてコンクリートの壁の中に消えたのだ。木とコンクリートの壁にはひびもはいらず綺麗な穴を開けていた。

白「固まってちゃ駄目だよ？」

一「！？」

白「たくさんいくよ～！白弾嵐（はくだんらん）」

白刃の左手から無数の白い球が一護目掛けて飛んできた。

一「くっ！（あんなのくらってたまるか！）」

一護は瞬歩でかわしていくが・・・・・

白「そこ！！」

白刃は一護を見失わずに白い球を飛ばす。

一「ちっ！・・・・・な！？」

一護はまた瞬歩でかわそうとするが、後ろに公園で遊ぼうとこっちに来ている子供にいるのに気付いた。

一（まずい！ここで避けたらあの子供に当たる！月牙天衝出そうにも町中じゃ・・・・）

そう、ここは空座町の公園でもちろん町の中にあり少し離れれば人もたくさんいるのだ。そんなところで月牙天衝を出せば被害はでか

いし町の人達もケガではすまないかもしれない。そんなこと考えていた一護は迫ってくる球に反応が遅れ

一「しまっ！」

一護にあたりそうになった・・・・・・・・・が・・・・

？？？「伏せろ、黒崎！！」

一「！？」

シュババババ！！

白「！？」

いきなり小さな青白い矢が白刃の白弾嵐を相殺した。

白「君・・誰？」

白刃は警戒しつつ矢を放った男に聞いた。

石「僕は石田雨竜、滅却師（クインシー）だ。」

一「石田！？何でお前が此処に？」

石「町を歩いていたら変な力を感じて来てみたんだけど、何者だいあの女の子？」

一「わからねぇ。死神でも破面でも人間でもないってことは分かってんだけどな・・・・・」

石「そうか。それに何か不思議な力を使っていたように見えるが？」

一「それもわからねぇ・・・でも、只者じゃないのは確かだ・・・・・」

白「・・・・・・・・・」

石「君が何者か聞いていいかい？」

そう聞いてみるが・・・・・・

白「君は人間なの？人間なのにそんな力があるんだ・・・・・・・」

全く聞いていない。

白「フフフ・・・・・・フフフフ・・・・・・」

一「・・・・・・・」

石「何が可笑しいんだい？」

白「すごい！！すごい！！この世界は凄～い！！人間が、ただの人が面白い力をつかって、死神っていう存在がいる・・・・・・この世界は凄い！！この世界なら、久しぶりに本気になれそうだよ～！！」

石「この、世界？」

一「本気、だと？」

白「さあ、始めよう・・・・・・簡単に終わらないでね・・・・・・・・」

一＆石「！？」

石「雰囲気が変わった・・・・・」

一（目がヤバイ・・・・・・）

白「いくよ、白・・・・・」

？？？「お待ちください。白刃様・・・・・」

一「何！？」

石「新手か！？」

白「・・・・・何しに来たの・・・・・・・翼刃・・・・・」

白刃は上を見上げて言った。それにつられて一護達も上を見上げた、そこにいたのは・・・・・・・・

石「な！？あいつは！！」

一「何で・・・・・何で・・お前がここにいるだよ・・・・・」

白「？」

？？？「・・・・・・・・」

二人の顔が信じれないという顔になっていた。なぜなら、そこにいたのは・・・・・・・・・・・・

一「応えろよ・・・・・・ウルキオラ！！」

藍染が率いていた破面（アランカル）の十刃（エスパーダ）Ｎｏ．４（クアトロ）であった、以前に一護と死闘のはてに倒した存在・・・・・・・・・・・

ウルキオラ　だった・・・・・・・・・・・・・・・・

ｈａｋｕｊｉｎ（後書き）

コン「Ｗｅ~ Ａｒｅ~ あとがき・ラジコ～ン・・・・」

ゴ～ルデン！！

コン「よう、元気かてめぇら！！夏の暑さにもまけねぇ熱気でおうくりするぜ、あとがき・ラジコンゴールデン！！」

一緒に夏バテを吹き飛ばして逝きましょう！！

コン「おい！漢字がちげぇ～！！」

たいして変わりませんよ

コン「かわるわ～！！あの世に行っちまうぞ！！」

Ｅ～、始まりました。あとがき・ラジコンゴールデン。今回は本編に出てきた白人についてです。

コン「おう、それ俺も気になってたんだよ。」

そうですか？え～、容姿ですが・・・・、見た目は十歳くらいの女の子で、全身真っ白です。

コン「真っ白ってどのくらいだよ？」

一護白版より白で、光で反射するくらいの白さです。

コン「まぶ！！眩しすぎる！！！」

コンみたいに心が汚い人にとっては苦手でしょう・・・・・・

コン「人をバイキン扱いしやがって・・・・・」

あとは、ぱっと見た目は日本人形みたいな子ですね。

コン「お、見た目は可愛いじゃねぇか。」

見た目に騙されたら酷いよ～。

コン「本編で知ってるから・・・・・・」

あ、十歳とありますが彼らにとって年齢はあまり関係ありません。

コン「彼ら？」

それはもう少しで・・・・・・

コン「まあ、言ってみれば姉さんみたいなモンか？」

そうですね、ある意味死神の皆さんジイサンばあさんですね。

コン「・・・・・それ、本人達の前で絶対言うなよ・・・・・」

分かってます

コン「ならいいけどよ・・・・・・・おっと、もうお別れの時間だぜ！！」

次回はオリキャラ登場って言う事で・・・・・

コン「俺の活躍も見やがれ！！」

ないですよ♪

コン「ふざけんなーーーーー！！！」

また次回会いましょう！！

コン「カムバックー！！マイタイムーーー！！」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6534m/

異世界の絆

2010年10月10日20時30分発行